

適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	MCPAを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
日本芝	—	一年生広葉雑草、チドメグサ	春夏の雑草生育初期(芝生育期)	0.5～1.0 ℓ /10a	200 ℓ /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生広葉雑草		1～1.5 ℓ /10a				
西洋芝(ブルーグラス) 西洋芝(ライグラス) 西洋芝(フェスク)		一年生広葉雑草 多年生広葉雑草	秋冬の雑草生育初期(芝生育期)	0.75 ～ 1.5 ℓ /10a				
			雑草生育初期(芝生育期)					
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等		雑草生育期(生育中期まで)	1～2 ℓ /10a	150 ～ 200 ℓ /10a		植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	

⚠ 効果・薬害等の注意

- 農作物や有用植物に散布液がかかると薬害が生ずることがあるので、散布に際しては飛散してかからないように注意する。
- メヒシバ、エノコログサ、チガヤ、ススキ等イネ科雑草には効果が劣るので、これらの雑草の優占地では、他の有効な剤と組み合わせて使用する。
- 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を見極めて散布する。
- 芝に使用する場合は次の事項に注意する。
 - 萌芽期の芝は抵抗力があまり強くないので、完全に生え揃った後に散布する。
 - 散布の際芝生の中や、付近にある草木や花木などに薬液がかからないよう、その付近での散布はさける。
 - 散布後芝生が若干黄変することがあるが、1～2週間後には回復する。
- 散布液を調製した容器および散布器具は、使用後できるだけ早く十分に水洗する。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意する。
 - 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意する。
 - 散布器具、容器の洗浄水および残りの薬液は河川等に流さず、容器、空きびん等は適切に処理する。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲に注意。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。使用中に異常を感じた時は、直ちに医師の手当を受ける。
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護メガネを着用し、薬剤が眼に入らないように注意。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける（強い刺激性）。
- 皮ふに付着しないように注意。皮ふに付いた場合は直ちに石けんでよく洗い落とす（刺激性）。
- 散布時は、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。

保管…直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

● 芝生／緑化管理地用茎葉処理除草剤

ブラスコンM液剤

MCPAイソプロピルアミン塩液剤



一年生から多年生の広葉雑草を選択的に枯らします



特 長

1. 植物ホルモン（オーキシン）作用を示す選択性除草剤です。
2. 広葉雑草の茎葉より吸収されて効果を発揮します。
3. 一年生から多年生まで広範囲の広葉雑草を選択的に枯らします。
4. 比較的低温下でも速効的に効果が発現します。

使い方のポイント

① 散布時期

茎葉処理剤ですので雑草の葉が完全に展開した生育初期(芝生地、緑化管理地)～生育中期(緑化管理地)までに散布して下さい。

④ 葉に良く付着させる

展着剤を加え、散布液が葉に良く付着するようにムラなく散布して下さい。

② 天候を見極める

処理6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を見極めて散布して下さい。

⑤ 刈込みは散布後3日

散布してすぐに刈込むと効果の劣ることがあるので、散布後3日以上経過してから刈込んで下さい。

③ 降雨後の散布は

降雨後に散布する場合は、雑草の葉面が乾いてから散布して下さい。

⑥ 高温時は使用をさける

芝生地で使用する場合は、高温時には葉焼け等の薬害が発生することがありますので使用をさけて下さい。

プラスコンM液剤の試験成績

雑草名と作用特性	プラスコンM液剤		対照A剤	対照B剤
	1.0ml/m ²	0.6ml/m ²	0.6ml/m ²	0.4ml/m ²
一年生広葉雑草	◎	◎	◎	◎
ブタナ(キク科)	◎	◎	○	○
タンポポ(キク科)	◎	◎	○～◎	◎
ヨモギ(キク科)	◎	○～◎	○	○～◎
セイタカアワダチソウ(キク科)	◎	◎	○～◎	◎
オオバコ(オオバコ科)	◎	○～◎	○	○
スギナ(トクサ科)	◎	○～◎	○	○～◎
チドメグサ(セリ科)	◎	◎	○～◎	◎
クローバー(マメ科)	○～◎	○	◎	◎
速効性	◎	◎	○～◎	○
低温時の効果	◎	◎	○	○

※ ◎:効果極大 ○:効果大 ※ 委託試験成績、社内試験結果より作表

試験年次	試験場所	処理日	処理量	効果	残効	効果の高い雑草	コメント
平成4年	日植調 北海道試験地	5/19 (生育初期)	1.0ml/m ² 1.5ml/m ² 2.0ml/m ² } 水量 150ml	大 大 大	60日 60日 60日	オオアワダチソウ タンポポ、ヨモギ ヘラオオバコ	速効性 クローバー には 高薬量必要
	農水省 草地試験場	5/13 (生育初期～生育期)	1.0ml/m ² 1.5ml/m ² 2.0ml/m ² } 水量 200ml	中 中～大 中～大	短 短～中 短～中	オオバコ チドメグサ、ハルジオン ヘビイチゴ	クローバー エゾノギシギシ 再生
平成5年	日植調 研究所	5/26 (生育中期)	1.0ml/m ² 1.5ml/m ² 2.0ml/m ² } 水量 200ml	極大 極大 極大	50日 60日 60日以上	ギシギシ、クローバー カラスノエンドウ、スギナ セイタカアワダチソウ	スギナに 効果高い
	日植調 熊本人吉試験地	5/1 (生育初中期)	1.0ml/m ² 1.5ml/m ² 2.0ml/m ² } 水量 150ml	大 大 大	長い 長い 長い	コモチマンネングサ タビラコ、ヨモギ ヒメジョオン、ミミナグサ	速効性 持続効果 長い
	日植調 岩手試験地	5/8 (生育初期)	1.0ml/m ² 1.5ml/m ² 2.0ml/m ² } 水量 150ml	大 大 大	60日 60日 60日	カキドオシ、ハコベ ハルジオン ヒメオドリコソウ	ギシギシ クローバー にやや劣る

※委託試験成績より抜粋

- ① 広葉雑草の生育初期に散布して下さい。登録の低目の薬量で効果が得られます。
- ② 高温時には芝生に葉焼け等の薬害が発生することがありますので、使用を避けて下さい。
- ③ チドメグサやオオバコに対し高い除草効果を示します。
- ④ 比較的低温でも速効的に効果が発現します。
- ⑤ 雑草の生育が進んだ場合や、クローバー、ギシギシ等が優占している場合は高目の薬量、多目の水量で散布して下さい。

成分・性状・物理化学的特性

一般名: MCPAインプロピルアミン塩液剤
 化学式: 2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸インプロピルアミン
 製剤: 40% 黄赤色澄明水溶性液体
 構造式:

CC(C)NCC(=O)Oc1ccc(C)c(Cl)c1

安全性

普通物
 50%液剤での結果を以下に示す。
 急性毒性: 経口・ラット・LD₅₀ 雄 994、雌 1076mg/kg
 経皮・ラット・LD₅₀ 雄雌 >2000mg/kg
 魚毒性: コイ急性毒性96時間LC₅₀ >1000mg/L